



北斗句会

二月定例会（五日 偕行社）

兼題「寒」「梅」

五十音順

特選

石田きよし選

八十にずいと踏込む返り花

大崎石州

床の間の備前の壺や寒椿

太田黒幸風

鶏鳴に一村緊まる寒の入

大森康政

幼児の手袋ひとつ砂場脇

竹内雲泉

特 夫婦して巡る御苑や春近し

田中資凡

寒禽に喰い荒らされし畑の黙

長池豆陽

特 長々と貨物列車や寒波来る

深見十万

探梅や見知らぬひとと懇ろに

藤田紀潮

臘梅の天を背にしてひらきけり

宮下ひかる

特 寒月や人影絶えし渡月橋

森田光彦

湯上りにごくんと一気寒の水

山縣秀雄

チバニアン彩り添へる寒椿

吉岡誠山



双子には二つの行く手姫椿

石田きよし